

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	他者の敬語使用に関する意識調査：日本語母語話者を対象として
Author(s)	ダイ, アンチ
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 29期: 190 - 207
Issue Date	2014-10-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038700
Right	
Relation	



他者の敬語使用に関する意識調査

— 日本語母語話者を対象として —

ダイ・アンチ

1. はじめに

現代の日本社会では、国際化、少子高齢化など様々な変化が見られ、そのような社会状況の変化は人々の言語生活にも影響を与えている。特に、近年では日本に在住する外国人が増加している。平成 25 年末時点で、日本国内の在留外国人数は 206 万 6,445 人であり、日本人と外国人が接触する機会はますます増えている。そのように外国人が日本人と接触し、会話を行う際には、メッセージを伝達することに加え、人間関係を築き、円滑なコミュニケーションを図ることも重要である。

コミュニケーションにおいて対人関係の配慮を表す言語的要素に「敬語」がある。日本語教育においても敬語は重視されており、学習初期から導入されるデス・マス体に加え、尊敬語や謙譲語も初級後半で導入されることが多い。このように日本語の敬語に関しては、学習初期から導入されているが、実際の会話場面では学習者に適切に使用されていないことが多い。

平成 23 年度の国語に関する世論調査では、「日頃、言葉使いで心掛けているのはどんなことか」という質問項目に対して、73.5%の日本人は「相手や場面に応じて敬語を使う」と回答している。過去の調査結果(平成 13 年度調査)の 58.0%と比較すると、相手や場면을重視する人の割合が増加している。ここから、敬語の使用に際しては相手や場面が重視されていることが分かるが、敬語の使用・不使用に関して、会話相手である日本人はどのような印象を受けるのであろうか。

従来の敬語に関する研究は使用者の観点からの研究が主であったが、対人配慮に関わる言語的要素に関しては、その受け手がどのように感じるかも重要である。敬語の不使用のみならず、相手や場面に合わない過剰な敬語や敬意表現はむしろ相手を不愉快にさせ、コミュニケーションを阻害することにもつながる。そこで本研究では、先行研究で指摘されてきた敬語が用いられる様々な場面において、日本語を母語とする受け手は、相手が日本人、N1 レベルの外国人、N4 レベルの外国人のそれぞれの場合に、それぞれどの程度、相手からの敬語使用を期待しているのかをアンケート調査を通して明らかにする。これらの研究を通して、日本人と外国人がお互い理解し合い、より良好な人間関係が築くことが望まれる。

2. 先行研究及び本研究の課題

2.1 日本語の敬語について

敬語は敬意表現の一種である。文化庁(2000)によれば敬意表現とは次のようなものである。

敬意表現とは、コミュニケーションにおいて、相互尊重の精神に基づき、相手や場面に配慮して使い分けている言葉遣いを意味する。それらは話し手が相手の人格や立場を尊重し、敬語や敬語以外の様々な表現からその時々によさわしいものを自己表現として選択するものである。文化庁(2000)

文化庁(2000)では、敬意表現の働きについて以下の六つが指摘されている。

- (1) 相手との立場や役割の異同を示す。
- (2) 相手との関係が親しいか否かを示す。
- (3) 場面が改まっているか否かを示す。
- (4) 伝える内容の性格を示す。
- (5) 相手の気持ちや状況に応じて思いやりを示す。
- (6) 自分らしさを示す。

日本語の敬語の成立の条件について、辻村(1977)では「対人関係」と「場面」が挙げられている。「対人関係」はさらに「上下関係」、「親疎関係」、「恩恵・負い目の関係」、「力関係」の四つに分けられる。「場面」は「私的な場面」と「公的な場面」に分けられる。実際の使用に際しては、これらが組み合わされ、敬語が使い分けられるという。また、これ以外にも、「性別」、「地位」、「内・外の関係」、「立場」等も敬語の使用に関わる。さらに、南(1987)は「一対一の話」より「一対多数の話」の方が丁寧な表現が使われることが多いと述べている。

次に、敬語の分類について、文化審議会(2007)によれば、日本語の敬語は尊敬語、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ、丁寧語、美化語の5種類に分けられる。尊敬語は相手側又は第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるものである。謙譲語Ⅰは自分側から相手側又は第三者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べるものである。謙譲語Ⅱは自分側の行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して丁寧に述べるものである。丁寧語は話や文章の相手に対して丁寧に述べるものである。美化語はものごとを、美化して述べるものである。文化審議会(2007)で挙げられているそれぞれの具体的な形式を表1にまとめる。

表 1 日本語の敬語の分類

尊敬語	[行為等（動詞、及び動作性の名詞）] いらっしゃる、おっしゃる、なさる、召し上がる、お使いになる、ご利用になる、読まれる、始められる、お導き、ご出席、（立てるべき人物からの）ご説明 [ものごと等（名詞）] お名前、ご住所、（立てるべき人物からの）お手紙 [状態等（形容詞など）] お忙しい、ご立派
謙譲語Ⅰ	伺う、申し上げる、お目に掛かる、差し上げる、お届けする、ご案内する、（立てるべき人物への）お手紙、ご説明
謙譲語Ⅱ	参る、申す、いたす、おる、拙著、小社
丁寧語	です、ます
美化語	お酒、お料理

このような敬語が持つ役割について、ネウストプニー(1982)は「敬語は人間の間の距離を調節する役割を果たしていると同時に、相手の教育標準を表す働きもある」と述べている。このように、敬語は人間関係に不可欠な役割を担っているため、社会における「敬語」への関心が高いと思われる。この点について、郡(2008)は「従来の「敬い」といった話し手の気持ちという要素は、敬語にももちろんあるが、それ以外の社会的立場や人間関係性にも着目した考え方が時代に導入されるようになってきていることが確認できると思われる」と述べている。

2.2 本研究の課題

これまで見てきたように、日本語の敬語に関しては、主に敬語の分類やどのような場合に敬語が用いられるかが明らかにされてきた。それらは話し手が聞き手や話題の人物をどのように待遇するかという話し手の観点からの研究であると言えるが、実際の使用場面においては聞き手が存在しており、敬語の性質上、聞き手がどのように受け取るのかという聞き手側からの研究も重要である。先行研究で指摘されてきた敬語が用いられる場面において、聞き手はどの程度、相手からの敬語使用を期待しているのだろうか。それは相手が日本人である場合と外国人である場合によって異なるのであろうか。

上記の問題について、本研究では、「公的—私的」、「個人—集団」という場面を設定し、それぞれの場面において、相手が日本人の場合と外国人の場合とで相手からの敬語使用を期待する意識に違いが見られるかどうかを明らかにする。なお、外国人の場合、日本語力の違いによって、敬語使用への期待に違いが見られる可能性があるため、N1 レベルと N4 レベルという二つのレベルを設定して調査を行う。

3. 調査方法

本研究の被調査者は広島大学の学部学生 44 名であり、年齢は 19 歳～29 歳である。調査はアンケート形式で、6 月 16 日と 20 日に行われた。回答時間は特に設定せず、回答終了後に調査用紙を提出してもらった。

調査用紙では、まず、被調査者の基本情報(名前、年齢、性別、学部など)を尋ねた。また、「公的－私的」が関わる場面を三つ、「個人－集団」が関わる場面を三つ、合計 6 場面を設定して、それぞれの場面で「相手」が敬語を使用しない場合に失礼だと思いかを尋ねた。その際の「相手」に関して、本研究では「日本人」の場合、「N1 レベルの外国人」の場合、「N4 レベルの外国人」の場合という 3 種類を設定した。場面の設定に際しては、授業中やクラブ活動中など大学生が日常経験すると思われる場面を設けた。また、「場面」や「人数」以外の要因については可能な限り統制するように努めた。

なお、比較考察を行うために、広島大学の留学生(日本語上級学習者)33 名にも同様のアンケート調査を行った。

4. 他者からの敬語使用に関する意識

4.1 結果と分析

アンケート調査の結果について、「公的－私的」(問 1、問 2、問 6)、「個人－集団」(問 3、問 4、問 5)の別に、以下に示す。

4.1.1 「公的－私的」場面(問 1)の調査結果と分析

問 1 は、授業中(公的場面)もしくは授業後(私的場面)、隣の席に座っていたあなたの知らない同級生から、先生の講義について質問をされる時、相手が敬語を使わないと失礼だと思いかどうかを尋ねたものである。問 1 の調査結果をまとめたものが表 2 であり、それをグラフ化したものが図 1 である。なお、以下における表中の数字は回答数を表し、()内の数字はそれぞれの割合(%)を表す。

表 2 他者からの敬語使用を期待する意識(問 1)

	失礼だと思わない	あまり失礼だと思わない	どちらとも言えない	やや失礼だと思う	失礼だと思う	合計
日本人(授業中)	6(13.6)	10(22.7)	7(15.9)	18(40.9)	3(6.8)	44(100)
日本人(授業後)	7(15.9)	13(29.5)	6(13.6)	15(34.0)	3(6.8)	44(100)
外国人N1(授業中)	10(22.7)	14(31.8)	11(25.0)	9(20.5)	0(0.0)	44(100)
外国人N1(授業後)	13(29.5)	14(31.8)	10(22.7)	7(15.9)	0(0.0)	44(100)
外国人N4(授業中)	22(50.0)	15(34.0)	4(9.1)	3(6.8)	0(0.0)	44(100)
外国人N4(授業後)	22(50.0)	16(36.4)	2(4.5)	4(9.1)	0(0.0)	44(100)

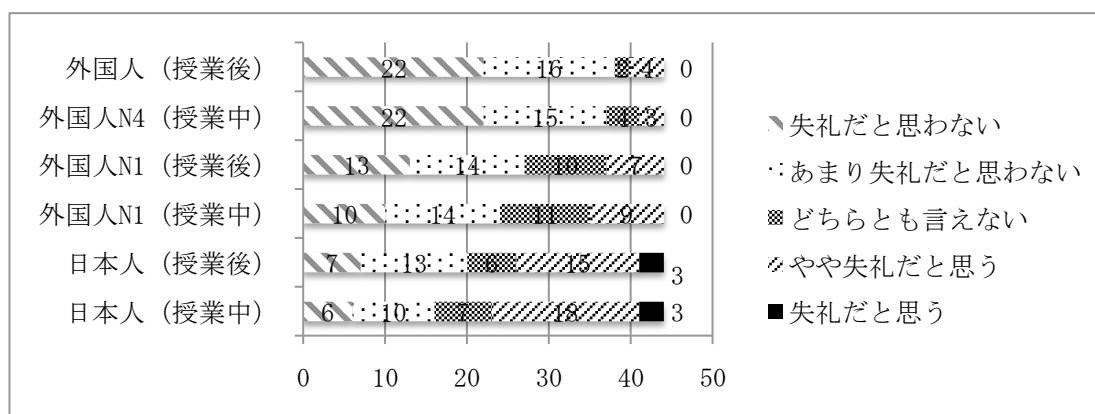


図1 他者からの敬語使用を期待する意識 (問1)

相手が日本人の場合、授業中に相手から敬語を使わずに話しかけられると「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせて 47.7%を占めている。授業後の場合にも、「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせると 40.8%であり、いずれの場合も 4 割以上が「失礼」であるとみなされる結果となっている。一方、相手が外国人(N1)の場合には、授業中も授業後も、「失礼だと思う」の選択率は 0%であり、「やや失礼だと思う」も選択率は 20.5% (授業中) と 15.9% (授業後) と日本人の場合よりも低い。相手が外国人(N4)の場合にも、授業中も授業後も、「失礼だと思う」の選択率は 0%であるが、「やや失礼だと思う」も選択率は 6.8% (授業中) と 9.1% (授業後) と外国人(N1)の場合よりも低い。

ここから、同じ場面であっても、求められる敬語使用は日本人と外国人とで異なり、外国人の場合には、相手の日本語能力レベルが上がるほど敬語の使用が求められることが分かる。

4.1.2 「公的-私的」場面 (問2) の調査結果と分析

問2は、テニスサークルのクラブ活動中 (公的場面) もしくは休み時間 (私的場面) に、あなたと同学年だと思われる知らない部員からラケットを貸してほしいと言われた時、相手が敬語を使わないと失礼だと思うかどうかを尋ねたものである。問2の調査結果をまとめたものが表3であり、それをグラフ化したものが図2である。

表3 他者からの敬語使用を期待する意識 (問2)

	失礼だと思わない	あまり失礼だと思わない	どちらとも言えない	やや失礼だと思う	失礼だと思う	合計
日本人 (活動中)	3 (6.8)	8 (18.2)	8 (18.2)	17 (38.6)	8 (18.2)	44 (100)
日本人 (休み時間)	6 (13.6)	10 (22.7)	7 (15.9)	16 (36.4)	5 (11.4)	44 (100)
外国人N1 (活動中)	4 (9.1)	12 (27.3)	13 (29.5)	12 (27.3)	3 (6.8)	44 (100)

外国人N1 (休み時間)	8(18.2)	15(34.0)	10(22.7)	8(18.2)	3(6.8)	44(100)
外国人N4 (活動中)	10(22.7)	15(34.0)	10(22.7)	8(18.2)	1(2.3)	44(100)
外国人N4 (休み時間)	14(31.8)	17(38.6)	5(11.4)	7(15.9)	1(2.3)	44(100)

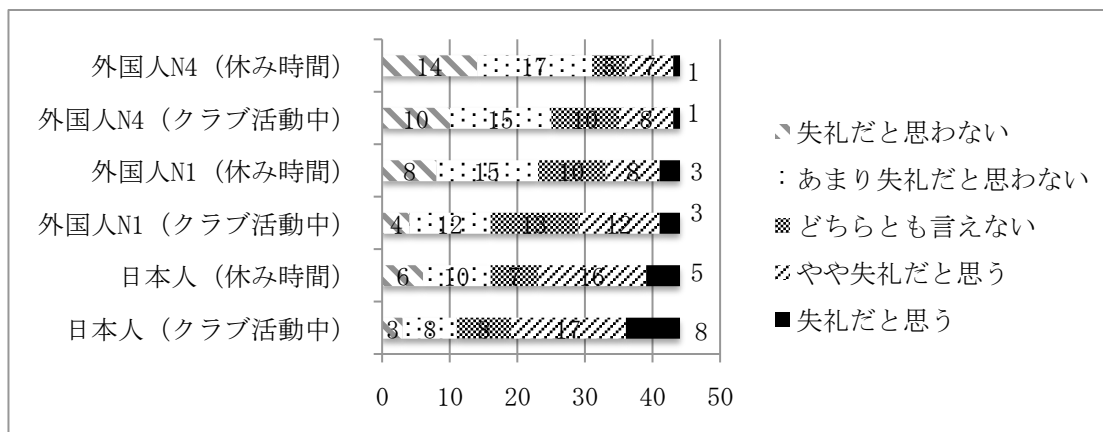


図2 他者からの敬語使用を期待する意識 (問2)

相手が日本人の場合、クラブ活動中に相手から敬語を使わずに話しかけられると「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせて 56.8%を占めている。休み時間の場合にも、「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせると 47.8%であり、いずれの場合も先に見た授業中・授業後よりも高い。相手が外国人(N1)や外国人(N4)の場合にも同様の傾向が見られ、「失礼だと思う」という回答も見られる。ただし、その割合は日本語レベルが低いほど低くなっている。

ここから、同じ「公的-私的」場面であっても、求められる敬語使用には違いがあることが分かる。ただし、いずれの場合にも、日本人と外国人とでは異なり、外国人の場合には、相手の日本語能力レベルが上がるほど敬語の使用が求められるという点は共通している。

4.1.3 「公的-私的」場面 (問6) の調査結果と分析

問6は、アルバイト先で、同じくらいの年の一緒に働いている人に、工作中 (公的場面) もしくは休憩時間 (私的場面) に話しかけられた時、相手が敬語を使わないと失礼だと思うかどうかを尋ねたものである。問6の調査結果をまとめたものが表4であり、それをグラフ化したものが図3である。

表4 他者からの敬語使用を期待する意識（問6）

	失礼だと思わない	あまり失礼だと思わない	どちらとも言えない	やや失礼だと思う	失礼だと思う	合計
日本人（工作中）	11 (25.0)	14 (31.8)	5 (11.4)	9 (20.5)	5 (11.4)	44 (100)
日本人（休憩時間）	22 (50.0)	13 (29.5)	6 (13.6)	2 (4.5)	1 (2.3)	44 (100)
外国人N1（工作中）	12 (27.3)	14 (31.8)	7 (15.9)	10 (22.7)	1 (2.3)	44 (100)
外国人N1（休憩時間）	21 (47.7)	16 (36.4)	6 (13.6)	1 (2.3)	0 (0.0)	44 (100)
外国人N4（工作中）	15 (34.0)	14 (31.8)	9 (20.5)	6 (13.6)	0 (0.0)	44 (100)
外国人N4（休憩時間）	24 (54.5)	15 (34.0)	5 (11.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	44 (100)

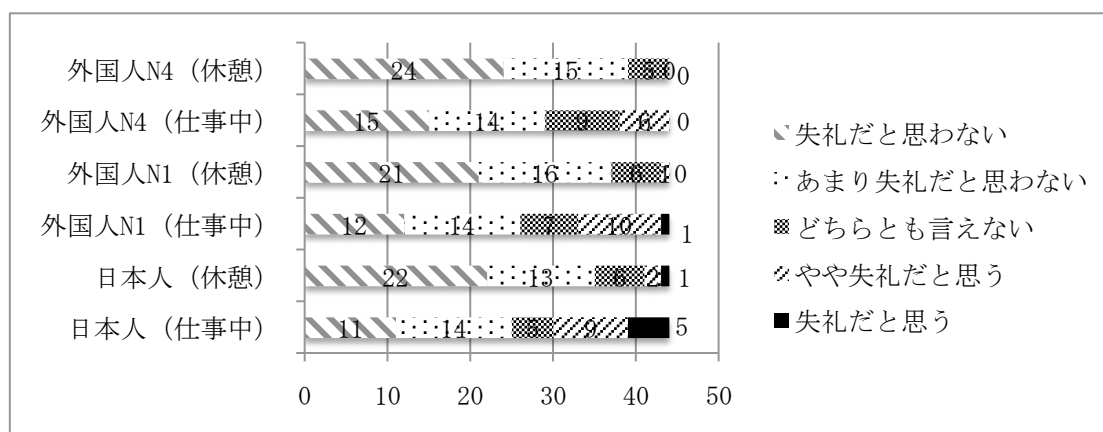


図3 他者からの敬語使用を期待する意識（問6）

相手が日本人の場合、アルバイト先での工作中に相手から敬語を使わずに話しかけられると「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせて 31.9%を占めている。一方、休み時間の場合には、「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせると 6.8%であり、両者の違いはこれまで見たどの場面よりも大きい。相手が外国人(N1)や外国人(N4)の場合にも同様の傾向が見られ、いずれの場合も「工作中」の方が顕著に敬語の使用が求められている。ただし、その割合はこれまで見た各場面と同様に、日本語レベルが低いほど低くなっている。

4.1.4 「個人－集団」場面（問3）の調査結果と分析

これまでは「公的－私的」場面について分析を行ってきたが、以下においては「個人－集団」場面の調査結果をまとめるとともに分析を行う。問3は、何人かの友人と歩いている時（集団）あるいは一人で道を歩いている時（個人）に、同じくらいの年の人から道を

尋ねられた場合に、相手が敬語を使わないと失礼だと思うかどうかを尋ねたものである。問3の調査結果をまとめたものが表5であり、それをグラフ化したものが図4である。

表5 他者からの敬語使用を期待する意識（問3）

	失礼だと思わない	あまり失礼だと思わない	どちらとも言えない	やや失礼だと思う	失礼だと思う	合計
日本人（友人と）	7(15.9)	4(9.1)	1(2.3)	17(38.6)	15(34.0)	44(100)
日本人（一人で）	7(15.9)	4(9.1)	3(6.8)	14(31.8)	16(36.4)	44(100)
外国人N1（友人と）	9(20.5)	5(11.4)	11(25.0)	16(36.4)	3(6.8)	44(100)
外国人N1（一人で）	9(20.5)	4(9.1)	11(25.0)	17(38.6)	3(6.8)	44(100)
外国人N4（友人と）	11(25.0)	21(47.7)	8(18.2)	4(9.1)	0(0.0)	44(100)
外国人N4（一人で）	12(27.3)	19(43.2)	9(20.5)	4(9.1)	0(0.0)	44(100)

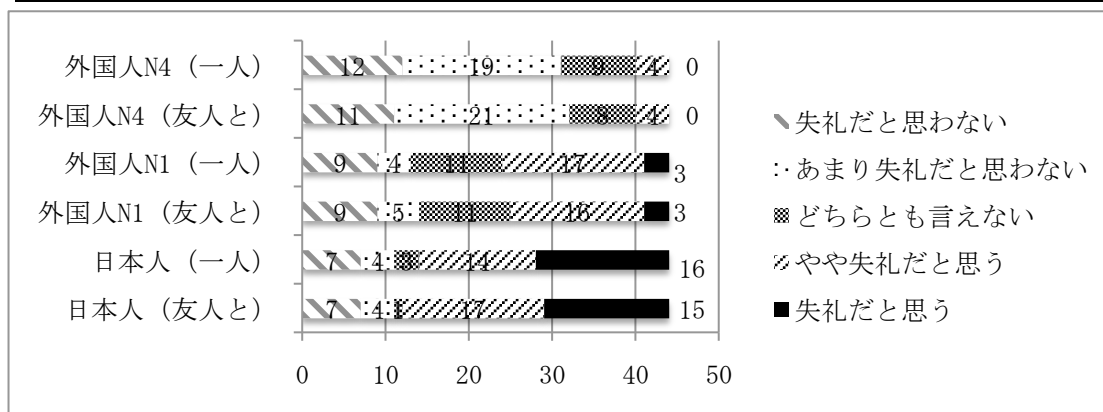


図4 他者からの敬語使用を期待する意識（問3）

相手が日本人の場合、友人と一緒に歩いている時に相手から敬語を使わずに話しかけられると「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせて72.6%を占めている。一人で歩いている時に敬語を使わずに話しかけられた場合も「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせると68.2%であり、大きな違いは見られない。南（1987）は「一対一」の場合より「一対多数」の場合の方が丁寧な表現が使われることが多いと述べているが、上記の場面においてはそのような違いは見られない。

相手が外国人の場合にも、そのように「集団」か「個人」かによる違いは見られない。ただし、いずれの場合も相手の日本語力が高くなるほど敬語の使用を期待する度合いは高くなっている。このような特徴はこれまで見てきたすべての場面と共通するものである。

4.1.5 「個人－集団」場面（問4）の調査結果と分析

問4は、留学生との交流会で、みんなの前（集団）あるいは個人的（個人）に、同じくらしい年の知らない学生から話しかけられた時、相手が敬語を使わないと失礼だと思うか

どうかを尋ねたものである。問4の調査結果をまとめたものが表6であり、それをグラフ化したものが図5である。

表6 他者からの敬語使用を期待する意識（問4）

	失礼だと思わない	あまり失礼だと思わない	どちらとも言えない	やや失礼だと思う	失礼だと思う	合計
日本人（友人と）	7(15.9)	14(31.8)	5(11.4)	11(25.0)	7(15.9)	44(100)
日本人（一人で）	9(20.5)	20(45.5)	4(9.1)	10(22.7)	1(2.3)	44(100)
外国人N1（友人と）	12(27.3)	16(36.4)	7(15.9)	7(15.9)	2(4.5)	44(100)
外国人N1（一人で）	13(29.5)	24(54.5)	9(20.5)	3(6.8)	0(0.0)	44(100)
外国人N4（友人と）	18(40.9)	21(47.7)	2(4.5)	2(4.5)	1(2.3)	44(100)
外国人N4（一人で）	18(40.9)	21(47.7)	3(6.8)	2(4.5)	0(0.0)	44(100)

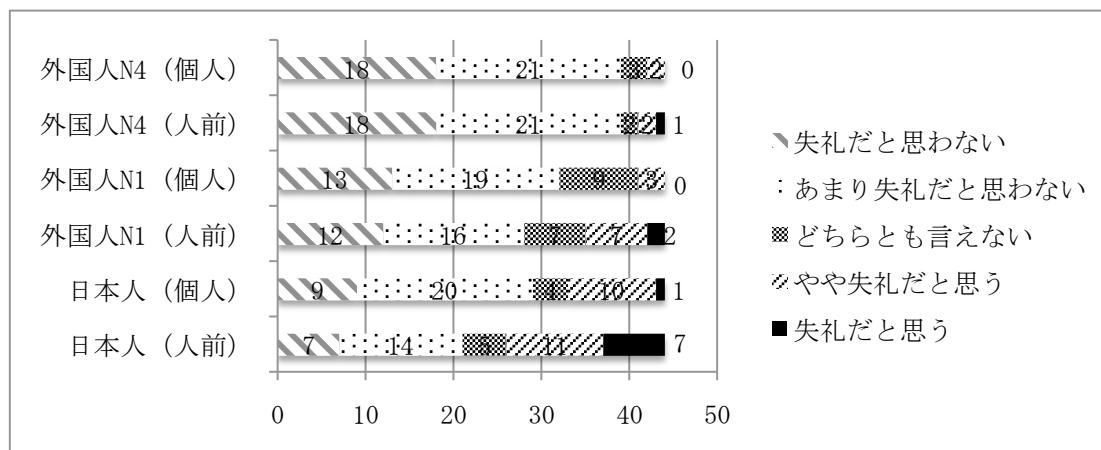


図5 他者からの敬語使用を期待する意識（問4）

相手が日本人の場合、交流会で他の人の前で相手から敬語を使わずに話しかけられると「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせて40.9%を占めている。一方、個人的に敬語を使わずに話しかけられた場合にも「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせると25%であり、「他の人の前」か「個人的」かによって敬語の使用を期待する度合いに違いが見られる。先に見た「道を尋ねられる場面」では「個人」か「集団」かによる違いは見られなかったが、「交流会」の場面では「個人」か「集団」かによって敬語の使用を期待する意識が異なり、「集団」の場合の方が敬語の使用を期待する意識が高い。

相手が外国人（N1）の場合にも同様の傾向が見られ、「個人」よりも「集団」の方が相手からの敬語の使用を期待する度合いが高い。これに対して、相手が外国人（N4）の場合には「個人」であっても「集団」であっても敬語の使用を期待する度合いは低い。

このように、「交流会」という場面において、日本人と外国人（N1）に対しては「集団」の場合に敬語の使用を期待する度合いが高くなると言える。ただし、いずれの場合も、日本人＞外国人（N1）＞外国人（N4）の順に敬語の使用を期待する度合いが高くなっており、このような特徴はこれまで見てきたすべての場面と共通するものである。

4.1.6 「個人－集団」場面（問5）の調査結果と分析

問5は、友人（集団）とあるいは一人（個人）でエレベーターに乗っていて、同じくらいの年の人から話しかけられた時に、相手が敬語を使わないと失礼だと思うかどうかを尋ねたものである。問5の調査結果をまとめたものが表7であり、それをグラフ化したものが図6である。

表7 他者からの敬語使用を期待する意識（問5）

	失礼だと思わない	あまり失礼だと思わない	どちらとも言えない	やや失礼だと思う	失礼だと思う	合計
日本人（友人と）	4(9.1)	1(2.3)	7(15.9)	22(50.0)	10(22.7)	44(100)
日本人（一人で）	5(11.4)	5(11.4)	5(11.4)	14(31.8)	15(34.0)	44(100)
外国人N1（友人と）	5(11.4)	9(20.5)	12(27.3)	17(38.6)	1(2.3)	44(100)
外国人N1（一人で）	5(11.4)	8(18.2)	12(27.3)	17(38.6)	2(4.5)	44(100)
外国人N4（友人と）	10(22.7)	20(45.5)	8(18.2)	5(11.4)	1(2.3)	44(100)
外国人N4（一人で）	8(18.2)	22(50.0)	9(20.5)	4(9.1)	1(2.3)	44(100)

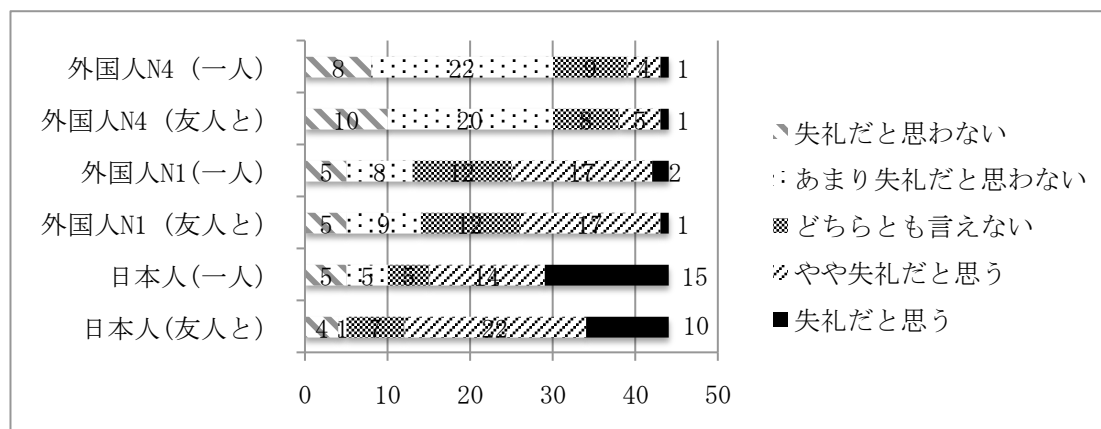


図6 他者からの敬語使用を期待する意識（問5）

相手が日本人の場合、友人と一緒にエレベーターに乗っている時に相手から敬語を使わずに話しかけられると「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせて72.7%を占めている。一人でエレベーターに乗っている時に敬語を使わずに話しかけられた場合も「失礼だと思う」と「やや失礼だと思う」を合わせると65.8%であり、先に見た「道を

尋ねられる」場面と同様、大きな違いは見られない。相手が外国人 (N1) や外国人 (N4) の場合にも同様に、「集団」か「個人」かによる違いは見られない。ただし、いずれの場合も相手の日本語力が高くなるほど敬語の使用を期待する度合いが高くなっている点はこれまで見てきたすべての場面と共通する。

4.2 考察

これまで「公的-私的」、「個人-集団」という観点から調査結果をまとめ、分析を行ってきた。以下においては、それぞれの分析結果にもとづいて考察を行う。

4.2.1 「公的-私的」場面において期待される敬語使用

本研究では、敬語の使い分けが予想される「授業中 (公的)・授業後 (私的)」、「クラブ中 (公的)・休み時間 (私的)」、「アルバイト中 (公的)・休憩時間 (私的)」という三つの場面を設定した。いずれの場面においても、公的な場面の方が私的な場面よりも敬語の使用が期待されるという傾向が見られたが、その期待度は場面による違いが見られ、クラブ活動の場面では「活動中」も「休み時間」も他の場面よりも、日本人・外国人ともに敬語の使用が期待されていた。これは、「クラブ」という集団において高い規律意識が求められていることによると考えられる。

また、同じ場面であっても、アルバイトの場面においては「工作中」か「休憩時間」かによって顕著に違いが見られた。ここから、「仕事」の場面では特にスタイルの使い分けが求められることが分かる。

このように、相手に期待する敬語使用は場面によって異なるが、いずれの場面においても、日本人に対する期待度が最も高く、外国人に対しては日本人ほどには期待されていない。ただし、外国人であっても日本語のレベルが高くなるほど日本人に対する期待度に近くなっている。

4.2.2 「個人-集団」場面において期待される敬語使用

上に見た「公的-私的」以外に、「個人-集団」という要因によっても敬語の使用は変化する。先に述べたように、「一対一」の場合より「一対多数」の場合の方が、敬語が使われることが多いことが指摘されているが (南 1987)、本研究において設定した「道を尋ねられる場面」と「エレベーターで話しかけられる場面」ではそのような違いは見られなかった。「交流会」の場面ではそのような違いが見られたことをふまえると、「個人-集団」という要因は「会話の場」が設定されている場合に敬語の使用に関わるということが推測されるが、この点については今後、さらに検証する必要がある。

また、「個人-集団」に関する三つの場面に共通して、外国人は日本人ほどには敬語の使用が期待されていないことが分かった。ただし、上に見た「公的-私的」場面と同様、外国人であっても日本語のレベルが高くなるほど日本人に対する期待度に近くなっている。

4.2.3 日本語学習者（N1）の調査結果との比較

本研究においては、日本語母語話者が相手に期待する敬語意識について探ってきた。その結果、日本語学習者に対しては日本人ほどには敬語の使用を期待していないが、学習者の日本語レベルが上がるほど期待度も高くなることが明らかになった。ここでは、日本語学習者（N1）に対して行った同様のアンケート調査結果と比較することで、お互いに期待する敬語使用の意識の異同を明らかにする。

比較に際しては、これまで見てきた日本人被調査者の回答のうち「外国人（N1）」からの敬語使用を期待するものと、N1 レベルの日本語学習者 33 名が同様の場面で日本人に対する敬語使用意識を回答したものをデータとして用いる。なお、両者を比較するに際して、評価尺度を 0～1 の範囲で数値化した。具体的には、「失礼だと思わない=0」、「あまり失礼だと思わない=0.25」、「どちらとも言えない=0.5」、「やや失礼だと思う=0.75」、「失礼だと思う=1」のように数値化し、平均値を算出した。平均値が 0 に近いほど敬語の期待度は低く、1 に近いほど敬語の期待度が高いと言える。このように算出した日本人と外国人（N1）のお互いに対する敬語使用の平均期待度を図 7 に示す。

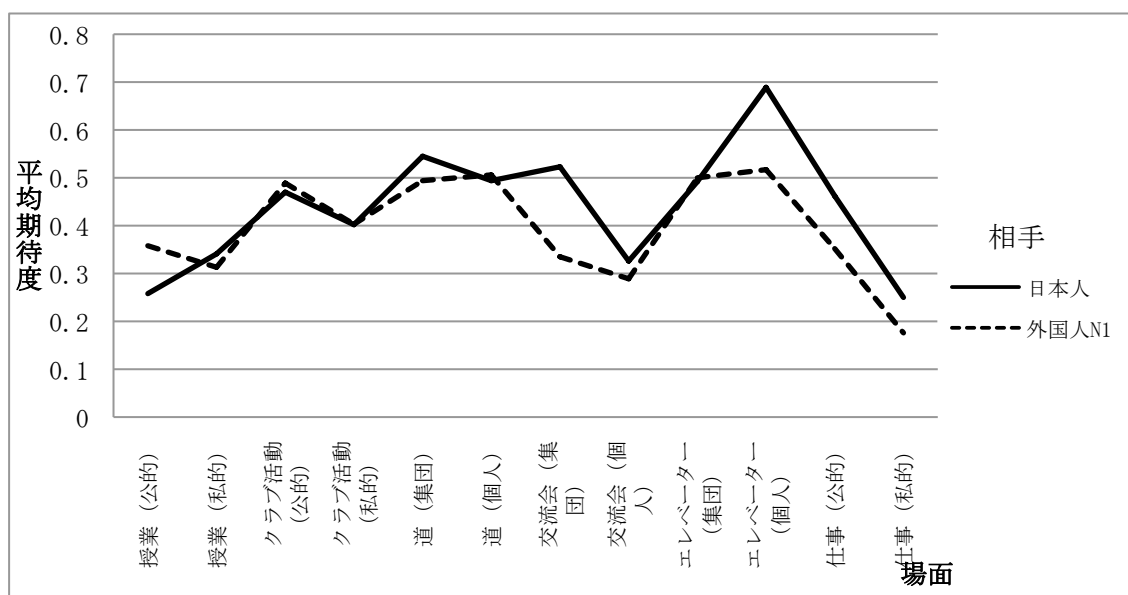


図 7 他者からの敬語使用の期待度 (平均値)

図 7 を見ると、「授業（公的）」の場面では、日本人が外国人（N1）に対して敬語使用を期待する度合いが高いが、それ以外の場面では、外国人（N1）が日本人に対して敬語を期待する度合いが高いことが分かる。また、「クラブ活動」や「道を歩いている時」のように日本人と外国人（N1）とでお互いに期待する敬語使用の度合いが一致する場面もあれば「交流会（集団）」や「エレベーター（個人）」のように両者の意識が異なる場面も認

められる。このように両者の意識が異なる場面において、両者が接触し、コミュニケーションを行う際には、特に注意が必要であろう。

5. まとめと今後の課題

5.1 まとめ

本研究では、日本語母語話者の大学生が他者からの敬語使用を期待する意識について「公的－私的」、「個人－集団」という場面の違いに着目して考察を行った。その際、相手が日本人、N1 レベルの外国人、N4 レベルの外国人といった相手の属性の違いによって、それぞれの場面で敬語の使用意識に違いが見られるかについても考察を行った。本研究で明らかになったことを以下にまとめる。

まず、「公的－私的」という要因に関して、本研究で設定したすべての場面において、公的な場面の方が私的な場面よりも敬語の使用が期待されることが分かった。特に、アルバイトの場面においては「工作中（公的場面）」か「休憩時間（私的場面）」かによって敬語使用を期待する意識に顕著な違いが見られた。ここから、「仕事」の場面では特にスタイルの使い分けが求められることが分かる。

次に、「個人－集団」という要因に関して、「道を尋ねられる」場面や「エレベーターで話しかけられる」場面では「個人－集団」の違いは見られなかったが、「会話の場」が予め設定されている「交流会」の場面では「一対多数」の場合の方が敬語の使用が期待されていた。南（1987）では、「一対一」の場合よりも「一対多数」の場合の方が敬語が用いられやすいと指摘されているが、敬語使用を期待する意識において、「個人－集団」という要因は「会話の場」が設定されているかどうかと関わるということが、ここから示唆される。

最後に、相手の属性に関して、本研究で設定したいずれの場面においても、日本人に対する期待度が最も高く、外国人に対しては日本人ほどには期待されていない。ただし、外国人であっても日本語のレベルが高くなるほど日本人に対する期待度に近くなることが明らかになった。

この点に関して、本研究ではN1 レベルの日本語学習者に対しても調査を行った。その結果、多くの場面においては日本人が外国人（N1）に対して敬語の使用を期待する意識と外国人（N1）が日本人に対して敬語の使用を期待する意識は一致していたが、「交流会（集団）」や「エレベーター（個人）」のように両者の意識が異なる場面も認められた。

5.2 今後の課題

本研究では、アンケート調査によって上記のことを明らかにしたが、調査方法に関して、いくつかの限界や今後の改善点も見えてきた。特に、設問に関しては課題が残る。

本研究では、設定した場面で「相手が敬語を使わないと失礼かどうか」を尋ねたが、実際の会話場面においては、どのような内容のことを話しかけられるかによっても結果が異

なると考えられる。また、相手の属性として「日本人」、「外国人（N1）」、「外国人（N4）」という3者を設けたが、そこでどのような人物が具体的に想起されたかによっても回答に影響を及ぼす可能性がある。例えば、日本語レベルが同じ「外国人」であっても、アジア系か欧米系かによっても期待される敬語使用は異なる可能性がある。そのような結果には、被調査者自身が外国人や異文化と接触してきた経験や関わり方の意識が関わるであろう。

さらに、本研究では「敬語」という言語の形式的側面に着目して考察を行ったが、文化庁（2000）によれば、「話し言葉で以上のような配慮を音声で表現する事になるが、声の調子、高低や音量、速さ等に関する配慮も大切である。その他言葉に伴う態度や行動も敬意表現を担う要素である」という。すなわち、コミュニケーション場面で見られる敬意表現は様々な側面、例えば身振り、表情などまでに広げて考える必要があるということである。

現代の日本社会では、日本人と外国人が接触する機会が増えるにつれて、異文化間コミュニケーションの重要性が高まっている。本研究で明らかにしたように、様々な場面において相手にどのような敬語使用を期待しているかを知り、それに応じた敬語を過不足なく使用することで、人間関係を深め、より円滑なコミュニケーションが実現できると考えられる。上記の残された課題をふまえつつ、今後さらに研究を行うことで、日本人と外国人との円滑なコミュニケーションや人間関係の構築に寄与したい。

謝辞

本研究で行った調査に協力してくださった広島大学の日本人学生の皆様、広島大学の留学生の皆様、そして広島大学教育学部と国際センターの先生方に心より感謝を申し上げます。

参考文献

- 郡千寿子（2008）「文化審議会の答申と敬語教育」『弘前大学教育学部紀要』（99）、pp. 1-7、弘前大学教育学部
- 辻村敏樹（1977）「日本語の敬語の構造と特色」『岩波講座日本語4 敬語』大野普・柴田武編、pp. 45-94、岩波書店
- ネウストプニー、J.V.（1982）『外国人とのコミュニケーション』、岩波書店
- 文化審議会（2007）『敬語の指針』
- http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/keigo_tousin.pdf
- 文化庁（2000）第22期国語審議会「現代社会における敬意表現（答申）」
- http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/joho/kakuki/22/tosin02/12.html
- 南不二男（1987）『敬語』、岩波書店

補助資料 調査用紙

アンケート調査協力者の皆様

広島大学教育学部外国人研究生
ダイ・アンチ

敬語意識に関する調査のお願い

この度は、アンケート調査にご協力くださり、ありがとうございます。
私は日本語の敬語意識について研究を行っています。つきましては、みなさまの敬語意識について、お尋ねしたいと思っております。この調査内容と結果は学術目的以外には使用いたしませんので、何卒ご協力くださいますようお願いいたします。

【基本情報】

○全員お答えください。

フリガナ

お名前 (name) : _____

性別 (Sex) : M / F 年齢(age) : _____

学年 (Year) : _____ 学部(faculty) : _____

専攻・コース(major) _____ 出身地 (都道府県) (origin) : _____

日本語以外の理解できる言語(languages other than Japanese) : _____

留学の経験 (overseas exchange experience) 有/無

国(Country) : _____ 市 : _____

留学期間 (period of exchange) : _____

○日本人ではない方は答えてください

国(country) : _____

母語・話せる言葉 (mother language/others): _____

日本に滞在した時期(length of stay in Japan so far) : _____年__ヶ月

日本語のレベル: プレースマメントテスト _____JLPT _____

概要:

次のそれぞれの状況で、相手はあなたに対して敬語を使うべきだと思いますか？
「使わないと失礼だと思ふ」 場合には「5」、「使わないとやや失礼だと思ふ」 場合には「4」、「どちらとも言えない」場合には「3」、「使わなくてもあまり失礼だとは思わない」場合には「2」、「使わなくても失礼だとは思わない」場合には「1」を選んでください。自身の感覚で適当と思われる番号に○印をつけてください。なお、質問文中にある「N1」「N4」とはそれぞれ以下のような日本語能力を指します。

N1とは:

幅広い場面で使われる日本語を理解することができる

読む

・幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など 論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。

・さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。

聞く

・幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。

N4とは:

基本的な日本語を理解することができる

読む

・基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を、読んで理解することができる。

聞く

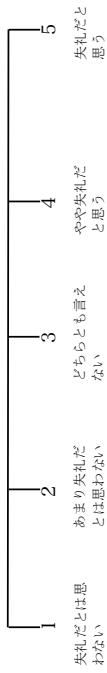
・日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。

「N1-N5 認定の目安」
<http://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>

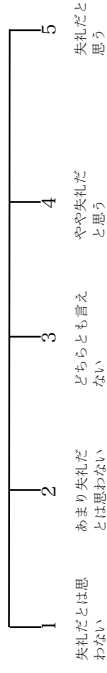
場面 1 a :

授業中、隣の席に座っていたあなたの知らない同級生から、先生の講義について質問をされる時。

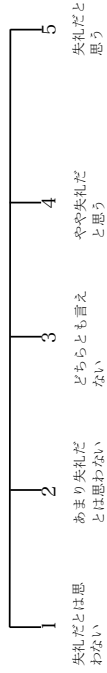
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



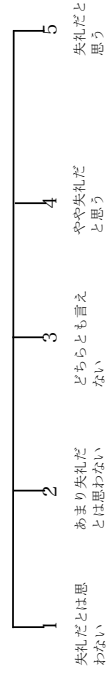
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



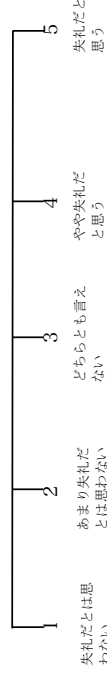
場面 1 b :

授業の後、隣の席に座っていたあなたの知らない同級生から、先生の講義について質問をされる時。

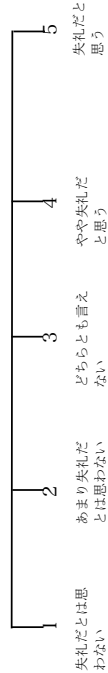
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



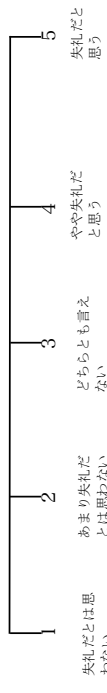
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



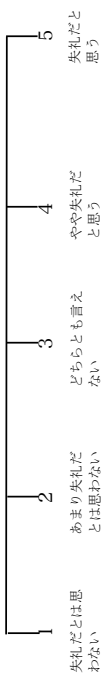
場面 2 a :

テニスサークルのクラブ活動中、あなたと同学年だと思われる知らない部員からラケットを貸してほしいと言われた時。

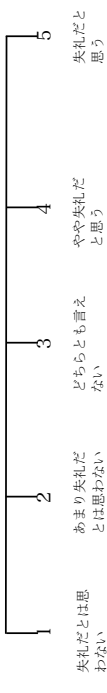
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



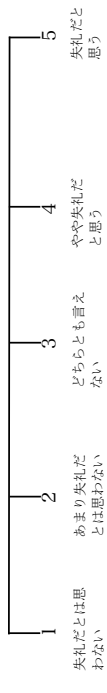
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



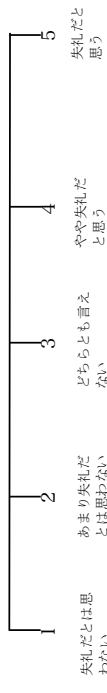
場面 2 b :

テニスサークルの休み時間に、あなたと同学年だと思われる知らない部員からラケットを貸してほしいと言われた時。

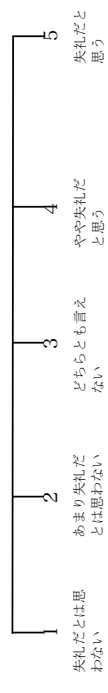
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



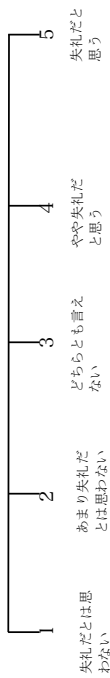
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



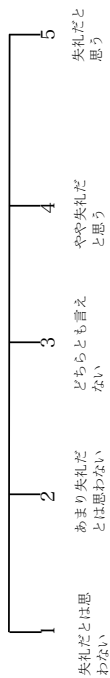
場面 3 a :

何人かの友人と道を歩いていて、あなたと同じくらいの年の人から道を尋ねられた時。

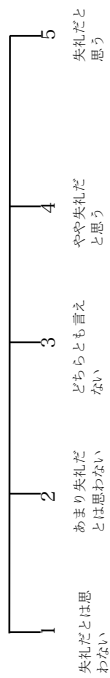
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



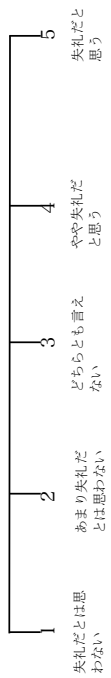
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



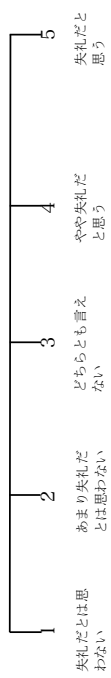
場面 3 b :

一人で道を歩いていて、あなたと同じくらいの年の人から道を尋ねられた時。

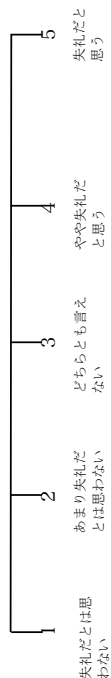
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



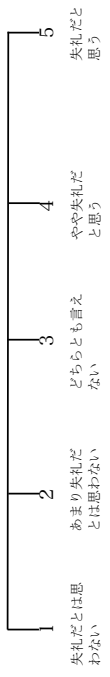
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



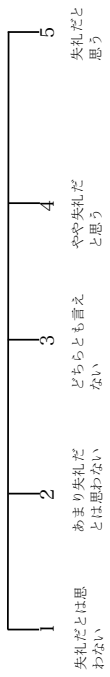
場面 4 a :

留学生との交流会で、みんなの前で、あなたと同じくらいの年の知らない学生から話しかけられた時。

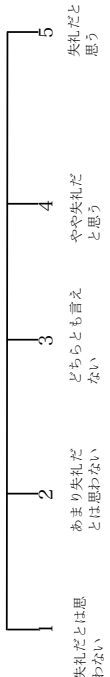
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



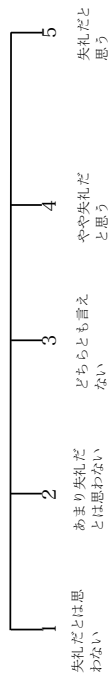
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



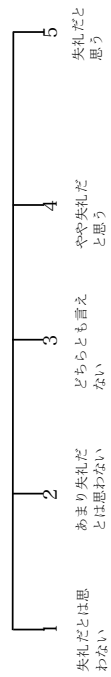
場面 4 b :

留学生との交流会で、個人的に、あなたと同じくらいの年の知らない学生から話しかけられた時。

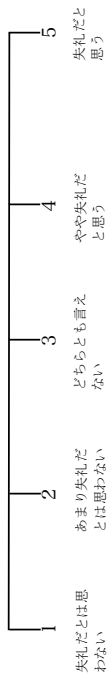
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



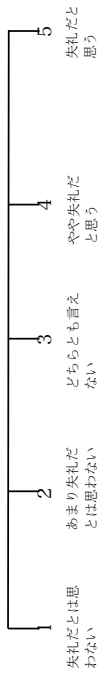
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



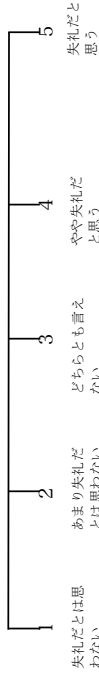
場面 5 a :

友達とエレベーターに乗っていて、あなたと同じくらいの年の人から話しかけられた時。

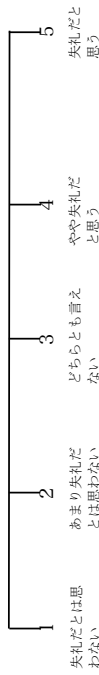
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



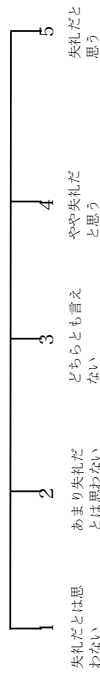
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



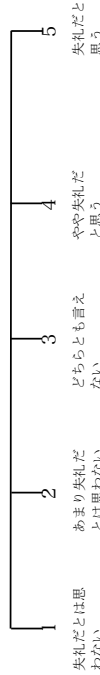
場面 5 b :

一人でエレベーターに乗っていて、あなたと同じくらいの年の人から話しかけられた時。

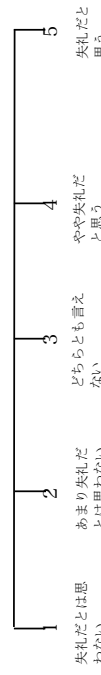
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



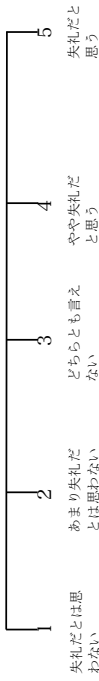
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



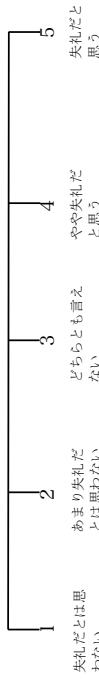
場面 6 a :

アルバイト先で、あなたと同じくらいの年の一緒に働いている人に、仕事に話しかけられた時。

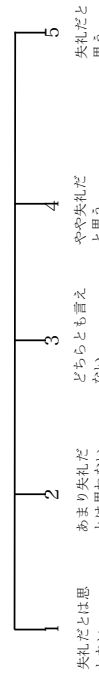
相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



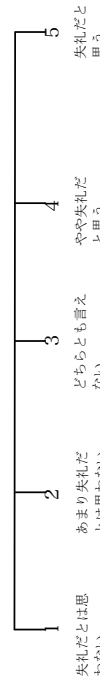
相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)



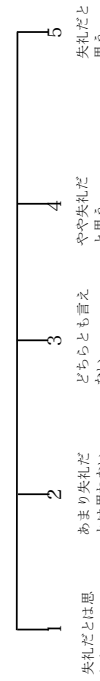
場面 6 b :

アルバイト先で、あなたと同じくらいの年の一緒に働いている人に、休憩時間に話しかけられた時。

相手は日本人



相手は外国人 (N1 = 日本語での会話がまったく問題がないレベル)



相手は外国人 (N4 = 日本語での会話が何とか可能なレベル)

